

全国青年大会、沖縄で今夏開催

日本聖公会 全国青年ネットワークニュース

日本聖公会 2008 全国青年大会

日程：2008年8月20日(水)15時～23日(土)12時

会場：沖縄 (宿泊：パシフィックホテル沖縄)

テーマ：そこにキリストは共にいる

*参加費・交通費などの詳細について・・・スケジュールに合わせて各地と沖縄往復の航空券を手配中です。
参加案内にて、金額等詳細をお知らせさせていただきます。なお、交通費補助についても検討中です。



京都教区の青年活動報告会にて、「今年は全国青年大会に参加してみたい！」と発言したことが始まりであった。私は今まで全国青年大会に、一度も参加したことがない。ましてや四年に一度の全国の聖公会青年が集まるというのだから是非参加してみたいと思ったのだ。しかし、気がついてみると、全国青年大会実行委

員長という立場になつてい。た。「参加者で沖縄に行く予定だったのに・・・」という思いは未だに拭いられない。私が実行委員になつた経緯はともかく、「二〇〇八日本聖公会全国青年大会 in 沖縄」は私たち全国の聖公会青年に対して、どのような存在になることが理想的なのかを考えていきたい。私が実行委員に加わつたの

は去年の年末であった。その時にはすでに沖縄という場所が開催地として決定され、三泊四日のプログラムが設定されていた。最初は、なぜ沖縄が開催地であるのかを深く考えていなかった。そして、「沖縄という魅力があるし、自然が豊かで海もきれい。青年が集

まっつてワイワイするには打つて付けの開催地ではないか。」そのように考えていた。しかし、実行委

員会に参加する中で、「何かが違う」。私の中で違和感が生じてきた。沖縄が選ばれた意味とは、もっと他に深く大きな意味を持つのではないだろうか。私は開催地を実行委員として決定したわけではない。そのため、「なぜ沖縄なのか」という問いに対して明確な答えがないままに実行委員会に参加する日々が続いている。

現在、沖縄は修学旅行、観光人気スポットとして存在している。私も高校の修学旅行で沖縄を訪れたことがある一人である。海が美しく、南国で、楽しむことができる観光スポットもたくさんある。そういったスポットライトが当てられ場には人がたくさん集まる。私自身、観光地としての沖縄のイメージは非常に楽しい思い出として残っている。それは、言い換えれば「明」という言葉が当てはまる。しかし、私は今年の三月沖縄に訪れることによって、「明

という部分とは反対に、スポーツライトが当てられずに潜んでいる闇の部分が存在することを実感させられた。「明」の反対には、「暗」という言葉が当てはまるだろう。そうして「暗」の沖縄に出会うことで「なぜ沖縄なのか」そのような自分の中の葛藤となつていったものが少しずつ理解できるようになつていく。その葛藤は、実行委員会のみなさまにフォーローしてもらいつつ、全国青年大会の内容を詰めているのが現状である。

私は全国青年大会開催当日も参加してくださった聖公会青年のみなさまに「なぜ沖縄なのか」という問うかもしれない。それは、みなさまにも「なぜ沖縄なのか」という疑問を持って今大会に参加していただきたいからである。日本聖公会の宣教課題としても沖縄が注目され、沖縄週間・沖縄の旅など他にもさまざまな沖縄でのプログラムが考えられる中での二〇〇八日本聖公会全国青年大会 in 沖縄なのである。また、今大会

は「日韓青年セミナー」との合流プログラムであり、青年の枠においては稀に見ない一大プログラムとなることであらう。

私は今大会実行委員長を務めるにあたり、参加してくださるみなさんに有意義な時間を過ごしていただくとともに、いくつかの問題意識を抱き、自らの教区に持ち帰り、聖公会アイデンティティを持つみなさんのこれからの生活、人生のスタンスとして役立ててほしいと思う。参加した青年のみなさまが、参加したくてもできない人々、また私たちを支援してくださる日本聖公会管区、各教区、各教会に対して報告をするなどして、何らかの形で還元できるようにしてほしい。日本聖公会のみなさまから喜ばれる取り組みとなるようにしたいと考えている。

(二〇〇八日本聖公会全国青年大会実行委員長・松山健作)

神戸

神戸教区では、昨年度の「ハツキン」が発展的解消をし、二〇〇八年度は宣教部主催による「青年集会」が開催されることになりました(担当者は藤井司祭&さこ田ユースコーディネーター)。上半期(二月~八月)は「日本聖公会全国青年大会」に向けて「沖繩」の事前学習の集会、下半期(九月~一月)は、教区内の地方教会に点在する青年を訪ねるキャラバンツアーを計画しています。

四月六日(日)には、明石聖マリア・マグダレン教会を会場に青年集会在開催され、今夏開催される全国青年大会について(大会開催までの流れ)、また、日本聖公会の青年諸活動についての学びのときを持ちました。配布された資料を読み合わせながら、従来、「教会の未来を背負う存在」として位置付けをされていた教会青年の理解から、視点を換え、青年たちが教会の「今」を生きている存在である、として理解し直すなければならぬことを学びました。

又日本聖公会全体で教会に集う青年が激減している現状を踏まえ、今後、宣教部としてどのように

「教会の青年」を位置づけていくのか、また青年自らがどのように自分たちを教会のなかで、また教会の活動の中で認識していくのか、など、自由な意見の交換を行いました。集会後は、四月より明石へ赴任された原田佳城司祭(事務局長)の司式で夕の礼拝を捧げ、その後は園庭に咲く満開の桜を眺めながら原田司祭ご夫妻が作ってくださいました「沖繩料理」を、(サンピン茶、泡盛と共に)楽しみました。

今後の青年集会は、
* 五月八日(木)「沖繩の音楽」(神戸教会会館)
* 五月三十一日(土)~六月一日(日)「神戸から沖繩へ」(姫路顕栄教会)
* 七月四日(金)「今、沖繩で起こっていること」(神戸聖ヨハネ教会)です。タイムリーなニュースは、<http://nssk-kobe-youth.at.webry.info/>(神戸教区ユース・コーディネーター通信)に随時UPされていますので、どうぞ、御覧になって下さい。

とにかく、今年は八月に開催される全国青年大会(沖繩)に向けての青年集会在が上半期のテーマです。その準備の過程の中で、新たな発見、出会いがあることを期待しています。
キリストの平和
(司祭 藤井尚人)

東京

「関東地区合同二〇〇八全国青年大会事前準備会」開催
この夏に開催される全国青年大会に向けて、東京教区では五月と七月の二回にわたって準備会を企画しています。具体的には、青年大会が沖繩で開催されるというところで、沖繩に関する勉強会+沖繩料理を食べ気分を盛り上げよう!というものです。

四年に一度の機会とはいえ、忙しい青年たちを沖繩三泊四日に簡単に飛び込ませるのは至難の業です。この会ではとにかく青年大会を知ってもらって青年たちを送り出すきっかけ作りを主眼に置きつつ、青年大会に行く気がある人もない人も、また青年大会に限らず青年活動に関心がある人も、沖繩に関心がある人にも参加していただいで、幅広い機会が作れればと思っています。

沖繩に関する学びを深める中で、青年大会に行く人は更に現地での体験を深められるように、青年大会を知らない人、迷っている人は関心を持ってもらえるように、同時に青年同士や大人と青年とが出会う時間にも、ついでに大人の方から

は沖繩渡航費のカンパをいただきたいちゃったりという欲張りなことを考えています。

全国青年大会自体、全国レベルで聖公会の青年同士が出会うことのできる貴重な経験の場であり、更に沖繩で開催されるということで、平和について現場から学ぶことができるという期待から、かなり幅広い受け皿になることが予想されます。

前回の長崎での大会でもそうだったように、これらの経験を通して新しいネットワークや活動のためのモチベーションやエネルギーを得、各教区・或いは管区レベルでの様々な広がりへと還元していくための起爆剤となることは間違いありません。とにかくどの層にもヒットしてもらえよう、何とかして送り出すことが第一だと思えます。

東京では「青年支援部会」という部会が青年活動の支援を行っています。呼びかけと同時に支援集めのための色々な計画も進んでいます。今回の準備会は、「関東地区合同」ということで、近隣の教区の皆さんにも積極的な参加を呼びかけて

横浜

昨年十一月に第二回青年の集まりをもちました。
日曜の午後のひとときですが、まずは集まり、共に交わろうというところが趣旨で、逗子聖ペテロ教会を会場に、神奈川県と千葉県青年が二十数名集まり、楽しいひとときを過ごすことができました。

自己紹介とクイズ、ゲーム等のあと、晩祷をほさみ共に買い物をして、食事を作り、食事しながら様々な話をするなどして、交わりを深めることができました。六月の第一回(千葉復活教会)と合わせ延べ四十名が参加できたことは今後の青年の歩みのために、大きなステップになったのではと思えます。

(教区教育主事・林眺司) います。二回目は七月一二日、北関東教区の大宮聖愛教会を会場に開催予定です。是非足を運んでみてください。(東京教区・聖マルコ教会・中村真希)

大阪

昨年の夏、聖ガブリエル教会にオーストラリアから一人の青年がワーキングホリデーで訪れました。当時からガブリエル教会には比較的多くの青年が集っていましたが、私たちがただ食事を共にし、雑談をするばかりでした。オーストラリアから来た青年は、そんな私たちに「聖書の勉強をみんなですてしてみたらどうだろうか」と提案をしてくれました。それから私たちは毎週、主日の午後を利用して、青年の聖書の学びの時間を設けました。

まず毎週一つの聖書箇所を選びます。そしてその聖書箇所を理解するための簡単な質問が書かれたプリントを担当者が作成します。そのプリントに基づいて、私たちは意見を話し合ったり、ディスカッションしたりして、自分たちなりに聖書について考えました。互いに折り合う時間を設けたときもありましたし、黙想のときもありました。泊まりがけのリトリートも2度行いました。様々なやり方で、私たちは日常ではなかなか出ることのない、お互いの心の中にある言葉を吐き出してきました。

教会の中で青年と出会う機会が多々ありますが、聖書について語り合うことや、自分と神さまとの関係、あるいは教会との関係についてなどを分かち合うことは少ないように思います。私はそのことをずっと寂しいと思っておりましたので、この聖書の学びを通して、初めて教会で出会った青年たちと本当の意味で「出会う」ことができたと感じ、青年同士が学び、語り合う場所を作っていきたいと思うようになりました。

就職や環境の変化などで、私たちも以前のように毎週集まるようになっていなくなっていることは確かです。けれど、オーストラリアから来た青年が「やるうとすれば出来る」ということを証明してくれたのですから、これからもこのような学びの場を続けてゆく努力をしないと、今強く感じています。
(大阪教区・聖ガブリエル教会・上田結子)

九州

九州教区・平和を考えるプログラム」は今年も恒例の「長崎に立つ」を二月九日～十一日に行った。参加者は東京教区一名、横浜教区五名、中部教区二名、京都教区五名に九州教十八名の計三十一名。今回も他教区からの参加者が多く与えられたが、嬉しいのは、まずリピーターとして毎回この「長崎に立つ」ことをライフワークにしてくれている仲間がたくさんいること。

そして次に、初めて参加する人達には我々のことを知る誰かが声をかけ、誘ったり勧められたりする関係の中で出会うことができたというこ

とである。私たちが長崎に立ち続けることによつて人と人が出会い、つながり、少しずつではあつても「語り継ぐこと」ができていくことに心から感謝したい。

更に今回は九州教区の参加も多かったが、これは今春高校を卒業した年代や大学生が加わつたため、一部で「他に行き場のない中年オヤジの居場所」とささやかれていた平プロに「若者(わかモン)」が与えられたとは、ホントコツうれしかつてほしいことだ。

さて、主なプログラムであるが、まずは初日のセッションI。今年も岡まさきは長崎平和資料館理事の新海智広さんに「私たちの社会はどこへ向かうか」としての問いかけをしながらお話をいただいた。

新海さんには三年連続お世話になっているのだが、私は話を聞くたびに末に危機感を抱く。今回は特に「憲法を守らなければならぬのは国民ではなく国家であり、憲法によって護られるのが国家ではなくて国民。憲法を守ることで国民を護るといふのが国家の役割であるはずが、その原則が逆転されようとしている」という言葉が印象に残つた。



東北

今年も恒例となりつつある「ユースキャンプ」を八月二日(火)～(一四日(木))にかけて十和田湖畔にあるヴァイアル山荘、さざなみ山荘(宿泊)を会場に行う予定です。十和田での開催は今年で三年連続になり、青年たちの間でも「夏は十和田！」という認識があるようで、今年も多くの子供たちの参加を期待しつつ準備をしています。今年のキャンプのテーマは「一日ごとの糧を今日もお与えください」で、神さまが与えてくださった自然の中で、食べ物の大切さを皆で考えようと思つております。

また、沖縄で開催される全国青年大会へも青年たちの参加を呼びかけています。東北教区の青年たちのためまたその働きのためお祈りください。

(東北教区青年担当・司祭 越山哲也)

全国青年担当者の集い

日本聖公会の各教区には青年担当者が置かれていますが、その担当者や管区宣教主事、青年委員会委員長らが集まる「青年担当者の集い」が、現在年二回のペースで開催されている。一月一三～一四日に、今年一回目の集いが開催された。

まず、各教区の活動報告が続いて、昨年八月にソウルで開催された日韓聖公会青年セミナーについて、参加者の浮田倫太郎さんから、次に、昨年九月に開催された聖公会国際青年ネットワーク会議について、参加者の中村真希さんから報告がなされた。

今回も前回の全国青年大会の集いに引き続き、全国青年大会に関する話し合いが行われた。前回の担当者の集いにおいて、日本聖公会全国青年大会を二〇〇八年に沖縄で開催したいとの結論が出されたが、そのことの確認と、その後の進捗状況について報告があり、プログラムの内容や交通費などについて話し合いがなされた。

どの教区の担当者も、今回の青年大会に多くの青年達を参加させ、教区の青年活動の活性化につなげたいと考えており、話し合いの際に、各教区の参加者予想人数と大韓

聖公会からの参加者を合計してみたところ、一八〇名近くに及ぶことが分かれて、大きな期待が寄せられていることを実感するところとなった。

今回の青年担当者の集いは、六月二九～三〇日に、東京にて開催される予定。(全国青年ネットワーク事務局・相原太郎)

お知らせ

日本聖公会全国青年ネットワークは、一九九二年の青年大会をきっかけに、京都教区の青年有志が立ち上げ、一九九七年より、その業務が中部教区(名古屋)に継承され、同職員の相原太郎が担当してききました。

今年九月より、相原が愛知聖ルカセンターからフイリピンに長期研修(当初二年予定)に派遣されることになり、同センターの職員として今年四月より勤務している山田拓路が、青年ネットワーク事務局の業務も引き継ぐことになりました。

管区青年委員会の協力により、今後、このニュースレターの発行やメールマガジンの運営、各種窓口業務などはそのまま継続する予定です。今後も、日本聖公会全国青年ネットワークをどうぞよろしくお願いたします。

ランベス会議

今年の夏は一〇年に一度のランベス会議が開催されることになっています。会議開催中は会場周辺にアピールブースが設けられ、さまざまな催しが企画されています。

現在、世界レベルでの聖公会の青年活動をつなぐ「国際聖公会青年ネットワーク (International Anglican Youth Network)」の「アピール」が活動しています。通称 I A Y N と呼ばれるこのグループでも、ランベス会議において青年たちのアピールをするための企画が進行中です。

具体的には活動アピール DVD やパンフレットを置くこと、また(まだ未定ですが)カンタベリー大主教をスピーカーに招いて青年活動に関するパネルディスカッションの開催が予定されています。

日本でも、日本の青年活動をアピールするためのビデオクリップ

がすでに作成済みですが、これは他の国の青年活動アピールの映像と一緒に I A Y N のアピールブースにおいて放映されることになっています。全国青年大会や辺野古での活動など、管区レベルの活動紹介のほか、各教区での様子もまとめられ、必見の出来になりました。youtube (<http://jp.youtube.com/watch?v=q1o-wRI0E>) で見ることもできますので、是非御覧ください。多くの人にとってまだまだ未知の、日本の雰囲気も少しでも伝わるきっかけになると思います。

SCM とはどんな研修か・・・簡単に言うと、実際に現場に行ってみることで、さまざまなことを体験することによって、その現場の歴史や実態などを学ぶという研修です。研修先は大阪の生野と釜ヶ崎で、SCM 現場研修は今年で三〇年目になるそうです。今回、僕は釜ヶ崎の方に研修に行かせていただきました。

SCM 現場研修参加報告

SCM とはどんな研修か・・・簡単に言うと、実際に現場に行ってみることで、さまざまなことを体験することによって、その現場の歴史や実態などを学ぶという研修です。研修先は大阪の生野と釜ヶ崎で、SCM 現場研修は今年で三〇年目になるそうです。今回、僕は釜ヶ崎の方に研修に行かせていただきました。

僕はこの研修で、多くのことを学びました。自分の人生を振り返ってみても、本当に貴重な経験だったと思います。

素敵な出会いもたくさんありました。さて、研修の感想ですが、僕が感じたことは、二つあります。

ひとつは、「先入観にとらわれることのなさ」です。研修に行く前から釜ヶ崎のことはある程度知っていて、釜ヶ崎に対して自分なりのイメージを持っていたのですが、そのイメージと現実がずれると、多々ありました。実際に行くと、自分の目で見てみるとわからな

いことがたくさんあることに気づきました。釜ヶ崎のことに限らず、いろいろなところで、無意識のうちに自分の頭の中だけで勝手に想像したり、思い込んでいたりして、勝手な考えをもっているということがたくさんあるんだろ

うと思います。今は、そういうことにも気がつくながら生きていきたいと思っています。

もうひとつは、ひとつめと少しはぶついているかもしれませんが、

「知るといふことの大切さ」です。初日に釜ヶ崎に到着して、旅行バッグを持ってみんなで歩いてみると、道端でおじさんに「見せもんちゃうぞ」と言われたことがありました。その言葉にすぐ胸をつかれました。

「知るといふことの大切さ」です。初日に釜ヶ崎に到着して、旅行バッグを持ってみんなで歩いてみると、道端でおじさんに「見せもんちゃうぞ」と言われたことがありました。その言葉にすぐ胸をつかれました。

この研修に参加したいと思ったのは、単に自分のためになると思っただけで(興味がある、見聞を広めたいなど)、おじさんにそう言われてからふと考えると、釜ヶ崎のために何かをしたいという意識は自分にはないことに気づきました(もともと、自分に何かできると思いませんでした)。

だから、自分が釜ヶ崎に来てこうやって研修を受けていることは、確かに自分のためになるだろうけれど、それは意味のあることなのだろうかと思っ

ていました。おじさんに「何で釜ヶ崎に来たん？」と聞かれても、どう答えていいかわかりませんでしたし、また、炊き出しで列の整理をしているときに、「ごろうさま」とか「ありがとう」といった言葉をかけてくれる人がたくさんいて、とてもありがたかったけれど、どこか複雑な気持ちでした。

でも、研修を終えて、今は「知る」ことは実は最も重要なことだと思っ

ています。研修後に、何人かの知り合いにこの研修の話をすると、ほとんどの人が「尼崎は知ってるけど・・・」という感じで、釜ヶ崎の存在すら知りませんでした。九日間の研修で、釜ヶ崎の現状を知り、その現状を変えるべく必死になって活動をされている方たちがたくさんいることを知りました。

しかし、家に帰ってみると周りの人は、そんなことは全く知りません。その事実には僕はショックを受けました。知らないことも始まら

ないと思うし、実際に自分の目で見て知るといふことの大切さを今は感じています。

正直に言うと、吉岡さんや解放会館の稲垣さんのように、今の自分の生活を捨てて、釜ヶ崎に腰をすえて活動するまでの勇氣もありませんし、そこまで熱い気持ちも持っていません。だけど、これ

からも関心を持ち続けることが重要なのではないかと思っ

ています。そうすることで、後になって自分にできることが見えてくるかもしれないし、もし見えてこなかったとしても、自分なりに問題意識を持ってやっていきたいと思っています。

(大阪聖ヨハネ教会・高木健一郎)

発行 日本聖公会全国青年ネットワーク事務局
名古屋市昭和区宮東町 260
名古屋学生青年センター内
tel 052-781-0165 fax 052-781-4334
e-mail youth.po@nssk.org
www.nssk.org/province/youth/